

入選

「私の目指す看護師像」

岩手県立岩泉高等学校1年 野吾 あかね

私の将来の夢は看護師になることです。看護師や医師は人の命を預かる仕事で、失敗が許されない仕事です。たとえ、小さなミスであっても患者側から訴訟を起こされたり、長い期間にわたって責任を追究されたりします。他の多くの仕事と比較しても、とてもリスクが高い仕事です。中学3年の文化祭の発表のために調べていて、年々医療従事者が減少していることがわかりました。減少の理由は、こういうリスクの高さも一因ではないかと私は思います。

しかし私はそれでも看護師になりたいと考えています。私は小さい頃から看護師の母の姿を見てきました。そのためか医療に興味を持つようになり、医療だけでなく、患者さんを支えられる看護師という職業に憧れを抱くようになりました。私の母は准看護師でした。准看護師は看護師に比べ給与水準が低く、昇格に影響することも多いと聞きます。私は看護師になって母が出来なかった分まで、主体的に仕事をしてみたいというのも動機の一つです。

私は中学2年で行った職場体験で、ある看護師さんと患者さんに出会いました。その病院は地元で唯一の大きな病院ではありましたが、医師や看護師の数も少なく、ほとんどの患者さんが高齢者であるという今の世の中の現状ともいえる病院でした。私はここで看護のお手伝いとして、散歩や食事のお手伝い、お話をするといったことを体験しました。患者さんが「ありがとう」と笑顔で言ってくれたのが嬉しかったことを今でもしっかりと覚えています。しかし患者さんの中には、入院生活の苦痛や治療の痛みからか看護師さんに対して暴言を吐く人もいました。患者さんの気持ちから考えると辛くて嫌なことも多いだろうと想像できるけれども、あのいらだった患者さんの言動はあまりにも衝撃的で私はショックを受けました。辛そうにしている患者さんを見なければいけないこと、また、その暴言などをいつかは自分も浴びるかもしれないという恐怖を感じ、私はかなりのダメージを受けました。そのとき私は看護師さんに「辛いところを見るのや、暴言を吐かれたりして、仕事が嫌になることはないのですか」と聞きました。すると、返ってきた言葉はとても温かいもので、「確かに辛いときもあるけど、一番辛いのは患者さんだからね。たとえ辛いと思ってもこれが看護師の仕事だし、だからこそ笑顔でいなきゃね」と言って、私の傷ついた気持ちを慰めてくれました。いくら自分自身が傷ついたとしても、患者さんの辛さを第一に考える看護師さんの心に、私は心を打たれました。自分よりも他の人の心を分かってあげられることこそ、看護師の一番大切なことではないかと思えます。

この経験を通して、私は看護師になるという夢が更に強くなりました。そして、常に笑顔でいたい。患者さんの気持ちを分かってあげたい。辛いのも包みこむような人間でありたい。そういう本物の優しさを持つ看護師になりたいという夢がどんどんふくらんできます。しかし、「なりたい」という思いや目標だけでは単なる憧れで終わってしまいます。私の先輩の一人で、助産婦になって地元で産婦人科を作るという夢を持つ、私の憧れの人があります。私もその先輩のように私の夢をかなえるために目標を一つ一つ行動にうつしていくと心に決めています。私は夢を実現する強い意志と実行力が私の中にしっかりあると確信しています。

人は誰かの支えがあって生きることが出来ます。私は苦しみの中にある人たちの支えとなり、一人でも多くの人に生きていることの喜びを与えることのできる看護師になりたい。それが私の夢です。